

藻類養殖情報（令和5年2月号）

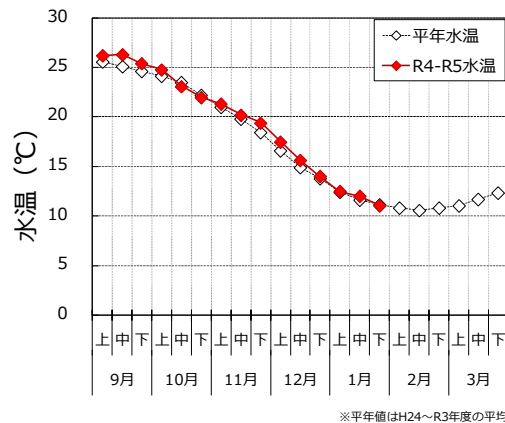
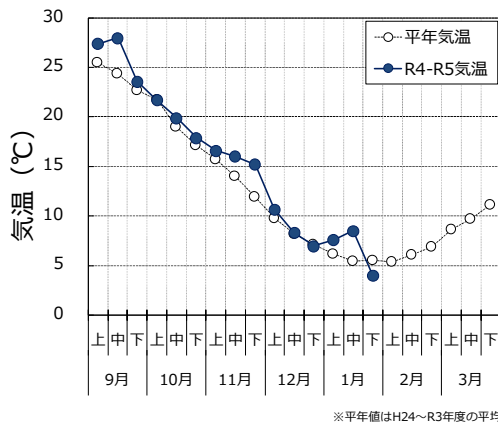
令和5年2月10日発行
大阪府立環境農林水産総合研究所
水産技術センター

○漁場環境

- ・気温（谷川）：1月上旬・中旬は高めに推移し、特に中旬は曇天が続き朝の冷え込みが弱かったため、平年より3℃程度高めに推移しました。1月下旬には寒波が到来し、平年を下回る気温となりました。
- ・水温（谷川）：1月中はおおよそ平年並みに推移しました。

下記の水産技術センターホームページでも水温情報を毎日更新しておりますのでご利用下さい。

URL：<https://www.knsk-osaka.jp/suisan/gijutsu/suion/index.html>



旬別水温・気温の推移（谷川地先9時）（平年値はH24～R3年度の平均）

- ・降雨量（谷川）：1月の降水量は32.0mmとなり平年の3分の2程度にとどまりました。特に1月上旬には降雨がなく、晴れの日が続きました。

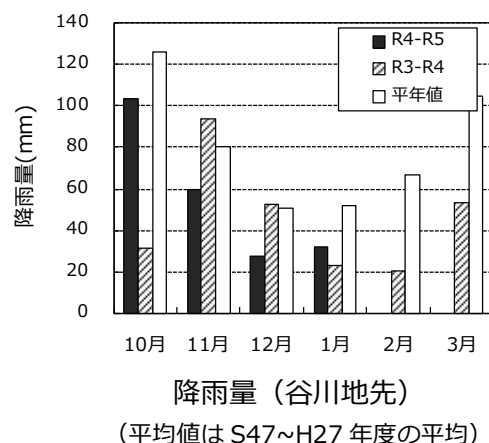
- ・今後の気温降雨量予測（気象庁季節予報）

2月4日～3月3日の予報期間中には、暖かい空気に覆われやすいため気温が高いと予報され、特に期間の前半はかなり高くなる見込みです。また、低気圧や前線の影響を受けやすいため降雨量が多いと予報されています。

URL

:

https://www.jma.go.jp/bosai/season/#term=season&area_type=offices&area_code=270000



○漁場水質調査結果（2月1日採水）

・塩分：塩分は20.30～32.94でした。田尻地区および下荘地区では低い値となっていますが、河川水の影響を受けているものと思われ、それに伴ってリン・窒素の濃度も高い値となっています。

・リン：各地区のリン濃度は0.16～4.91 $\mu\text{mol/l}$ でした。

ワカメ養殖：いずれの地区においてもワカメの生育には十分ですが、岡田浦以南で低い傾向が見られます。

ノリ養殖：尾崎・西鳥取の両地区でノリの色落ち警戒濃度を下回っています。

	ワカメ	ノリ
リン ($\mu\text{mol/l}$)	0.1	0.5
窒素 ($\mu\text{mol/l}$)	2	10

・窒素：各地区の窒素濃度は1.55～75.60 $\mu\text{mol/l}$ でした。

藻類色落ち警戒栄養塩濃度

ワカメ養殖：西鳥取地区では1.55 $\mu\text{mol/l}$ とワカメの色落ち警戒（この数値を下回ると色落ちの可能性あり）濃度を下回り、色落ちが生じる可能性があります。また、尾崎地区以南で低い傾向が見られます。

ノリ養殖：尾崎・西鳥取の両地区でノリの色落ち警戒濃度を下回っています。

※青字はノリの色落ち警戒濃度以下、赤字はワカメの色落ち警戒濃度以下

漁場	田尻	岡田浦	尾崎*	西鳥取*	下荘	谷川
塩分 (psu)	20.30	32.52	32.07	32.74	30.62	32.94
リン ($\mu\text{mol/l}$)	4.91	0.16	0.34	0.27	0.93	0.35
窒素 ($\mu\text{mol/l}$)	75.60	10.91	6.40	1.55	17.11	2.32

*尾崎・西鳥取地区にはノリ漁場があります。

○赤潮発生状況

1月23日の海洋観測ではユーカンピアとよばれる植物プランクトンがやや多めに発生しており、栄養塩の低下を引き起こしていた可能性があります。1月31日・2月3日の海洋観測では赤潮の発生は確認されませんでした。最近の大阪湾内の赤潮発生状況については下記の水産技術センターホームページに掲載しておりますのでご参照下さい（冬季は2週間に1回更新）。

URL：<https://www.knsk-osaka.jp/suisan/gijutsu/akashio/akashio/sokuho.html>



○養殖状況（2月1日）

ノリ：年明けから板海苔の生産が行われましたが、中旬には栄養塩の低下によると思われる色落ちが発生し、一部生産が中断していました。最近は若干の回復が見られ、生産が再開されています。

ワカメ：各地区で70 cm程度にまで生長し、生ワカメの出荷が行われています。谷川地区でも1月中旬以降に本養殖が開始されました。

○病害異常

地区によっては栄養塩の低い状況が確認され、ノリ・ワカメともに色落ちが生じる可能性があります。1月中旬に生じていた色落ちは12月下旬から1月上旬にかけて降雨のない日が続く、河川からの栄養が漁場に供給されにくい状況にあったことが要因と思われます。海色が変化した等の状況がありましたらお知らせください。